

## 講演

# ハルプリンの方法論と その基盤にある舞踊思想

昆野 まり子 (青山学院女子短期大学・非常勤)

### はじめに

アンナ・ハルプリン (Anna Halprin 1920-) はアメリカの舞踊家、振付家で、「ポストモダンダンスの母胎」(市川1975:92)として広く知られ、「伝統を打破しようとする新たな世代のアーティスト達に影響を与えた」(Banes 1995:2)人物である。その活動を追うと、訓練された者が劇場で踊るという芸術としての舞踊の概念から離れ、社会に対する影響力を持つ活動、生きることそのものを志向する活動がみとれ、近年では「Earth Mother」(Reardon 1999)とも評されている。ハルプリンの活動を支える概念や方法論は、60年代から徐々に整い始めたが、本稿はハルプリンが研究所を設立した1978年以降に焦点を絞り、活動の変遷、重視している概念、方法論、舞踊思想について、筆者のワークショップ参加記録とあわせて考察する。

### 1. 活動の変遷 1978年タマルパ研究所設立以降

1978年、58歳の時にハルプリンは長女と共にタマルパ研究所を設立した。これまで行ってきた多くの実験的活動や、地域を巻き込むような共同体におけるダンスの活動を基に、生活と芸術プロセスの統合を目指すライフ/アート・プロセスを開発し、ムーヴメント、ダンス、ヒーリングアート、創造的なプロセス、コミュニティアート等を調査の対象として実践的・研究的活動を開始した。

この時期の代表作には、平和の創造を目的とするRitualとしての舞踊『Circle the Earth』が挙げられる。『Circle the Earth』は、ハルプリン夫妻が事件により閉鎖された山を住民の手に取り戻すために行った住民参加型のワークショップがもととなり1985年に初演、以来繰り返し行われている。また『Circle the Earth』の一部を抜粋し、ダンスを踊り地球を繋ごうという趣旨のもと行われる『Planetary Dance』(1985-)も挙げられる。いずれも、芸術としての舞踊の概念を離れた活動ともいえる作品であり、ハルプリンの平和に向けた祈りの表れとなっている。

### 2. 重視している概念

#### (1) RitualとMyth

ハルプリンの活動には、RitualとMythという重要な概念が存在する。Ritualは「変化を作り出す」(smith1990:23)ことを目的としMythとして創造される要素であり、何をどのように経験し

たかそのプロセスをさす。60年代後半、自身の活動にRitualの概念を用いたのはハルプリンだけでなく、パフォーマンスに儀礼的時空間の軸を取り入れようという試みが、演劇人をはじめアートの世界に共通して起こっていた。その多くが見世物的なパフォーマンスとして行われたのに対して、ハルプリンのRitualは「ダンスをエンターテインメントやスペクタクルと区別し生み出されるプロセスを重視」(smith 1990:23)し、観客はプロセスを見守る目撃者へと移行した。

Mythは「埋没した創造力を開放し忘れかけていた自己を呼び起こす」(Halprin 1968:163)ことを目的とし、Ritualを経験することにより生成される「人々の存在に重要性を与える物語のパターン」(Kaplan 1995:xvi)とされている。

ハルプリンのRitualとMythの関係性を図に示すと以下のようになる。RitualAを経験すると、その経験がMythAとして生成される。RitualAの経験はさらに個人と集団レベルに分かれ、個人a・bがRitualAを経験すると個人a・bのMythが、集団には集団のMythが生成される。これを蓄積していくことにより、RitualとMythは個人と集団レベルで繰り返し生成蓄積され、人々の存在に重要性を与える物語のパターンとして大きなMythが生成されていく。

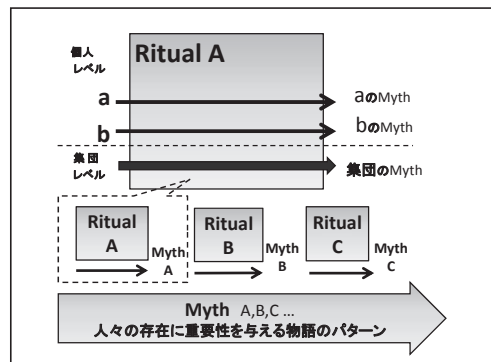


図1 RitualとMythの関係性

#### (2) 共同体

ハルプリンの共同体は、男女差、個人差といった多様性を尊重し、その差を統合することを目的とする。人種差別が大きな社会問題となっていた時代に黒人と白人が共に行った『Ceremony of Us』(1969)や、街全体を劇場に見立てた市民参加型のパフォーマンス『City Dance』(1960-69 1976-77)を行う中で、ハルプリンは共同体のコミュニケーションにおいて共通の経験を分かち合うことが非常に有効であることを感じた。以後、共同体活動の目的を、人々の共通の経験を集約した共通の形式見出すこととし、その普遍性を活動に取り入れている。

### (3) 自然

ワークショップ中のハルプリンの言葉がけには、「呼吸が波のように」「植物が伸びるように」「血液が山から海へ流れる川のように」と、自然の要素を取り込んだものが多い。ハルプリンは「自身の中に自然表現を探すのではなく、人間経験の反映として自然界を理解しようと努めている」(Halprin 1994: 216)、「自然は明確な声をもって導いてくれる偉大な教師である。地球を感じることは、深層部にある人間性を探ることを助け、時間を超越した無限の劇場へと私のダンスを結び付けてくれる」(Halprin 1994: xii) と言っており、自然の中で繰り返し活動を行うことにより、自然のプロセスに自己のプロセスを一致させる試みを行っている。

### 3. 方法論 ライフ/アート・プロセス

ライフ/アート・プロセスは「生活と芸術プロセスの統合」(Halprin 1989: 56)を目指すハルプリンにより開発された、個人が創造的なプロセスを引き出し実生活に還元することを可能にする方法論である。このプロセスでは、私たちが行いうるパフォーマンスの内容とその技能を、生活における問題と生活技能に結び付ける為、パフォーマンスの身体、感情、精神の統合を行う。それにより生活経験が深まり芸術表現を広げることができるよう組み立てられており、具体的な目的として以下の8つが挙げられている。

- ①相互に伝達可能な共通の形式を築き上げる。
- ②集団における創造の技術を体験し学ぶ。
- ③集団における創造のためにRSVPサイクルのアプローチを使用する。
- ④文化的、人権的、性的、年齢的、そして経済的な多様性を最大にする。
- ⑤共通の経験からRitualとMythを作り出す。
- ⑥グループの経験に各個人の期待を盛り込む。
- ⑦環境に対するグループの認識を深める。
- ⑧ワークショップの経験を日常生活へ生かす。

ライフ/アート・プロセスの展開には、後述するRSVPサイクルとサイコキネティック・ビジュアルリゼーションプロセスという2つの方法論が用いられる。

#### (1) RSVPサイクル

RSVPサイクルは集団における創造力のプロセスを明確化したものであり、夫のローレンス・ハルプリン(Lawrence Halprin 1916-2009)により1966年に開発された。グループとして協同する方法を組織化し目に見えるものとするための創造モデルであり、図2のようにデザインされている。

R = リソースは、グループが活動の基礎として利用するパーツとして持ち込まれ、与えられた環境全ての要素をさす。リソースの収集により、グループによるプロセスの生きいきとした実践と活

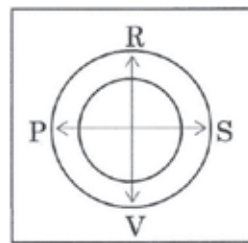
動に要求されている情報を得ることができる。

S = スコアは、論理的枠組み、活動計画のことで、いつどこで何をするかを示しパフォーマンスを導く。明確な意図と活動内容で集団を導く目的で、ハルプリンの活動には常に用いられる。

V = ヴァリアクションは、Valueとactionからなる造語であり、グループ全体でのフィードバック、討論、結果のまとめを行う段階をさす。グループの創造に何が生じていたか、発展の方向性を認識・確認する重要なプロセスとされる。

P = パフォーマンスは、グループによるスコアの実行であり、目的が理解される手段となる。

2重円の外側は集団レベル、内側は個人レベルを示す。全ての段階でフィードバックを行えば、どこから始まりどの方向に進んでもよく、集団レベルと個人レベルを行き来しながら、4つの要素を必要な順に巡り循環するプロセスになっている。



R = リソース  
S = スコア  
V = ヴァリアクション  
P = パフォーマンス

図2 RSVP サイクル (Lawrence Halprin)

#### (2) サイコキネティック・

##### ビジュアルリゼーション・プロセス

このプロセスは、ハルプリンが60年代半ば心と体の関係性を深めて開発したものである。ハルプリンは、心が体にどのように働きかけるかを知る為、動いた後にイメージを描かせそこに現れる身体言語を抽出し、その分析をゲシュタルト療法の創始者フレデリック・パールズ(Frederick S. Perls 1893-1970)に学んだ。この目に見える言語を学習することで、体から起こるメッセージを明確に理解することが可能となった。

#### (3) ハルプリンの方法論

以上、見てきたように、ハルプリンの方法論ライフ/アート・プロセスは、RSVPサイクルとサイコキネティック・ヴィジュアルリゼーションプロセスという2つの方法論によって展開される。ハルプリンの全ての活動はRSVPサイクルを軸に行われており、サイコキネティック・ヴィジュアルリゼーションプロセスは、描いて踊ることからRSVPサイクルの特にP = パフォーマンスと関連が深いといえる。またS = スコアと深く関連する概念としてRitualとMythが挙げられる。スコアを経験し変化が生まれることでそのプロセスがRitualとなり、Ritualを経験したことからMythが生成されていく。

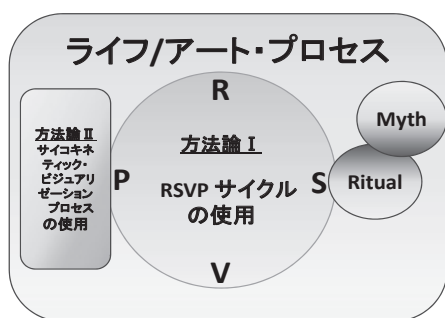


図3 ハルプリンの方法論

#### 4. W.S.における方法論実践の具体例

1998年8月2-7日、筆者がEsalen研究所にて受講したW.S.参加記録から、方法論実践の具体例を紹介する。

1日目は、自己紹介ダンス、ストラクチャー、アート・リチュアルを行う。アート・リチュアルはRSVPサイクルに非常に似た2重円で行われ、声を重ね調和をはかるスコアが示された。初日の全ての活動は共同体のリソース集めとなっていた。

2日目は、意識を体の内部へと向けることから始まった。動いた感覚を描くスコアが与えられ、描いた絵をパフォーマンスした後全員でヴァリアクションし新たなリソースが生成された。ハルプリンより「Ritualとは、終えた後、参加者に変化をもたらすものである。その変化は体が温まった、気持ちが昂揚した、新たな希望が生まれた等小さな変化でもよい。」という説明があった。

3日目、裸で自然を感じるスコアが提示される。1時間程自分の方法で自然を感じることを、裸になることを求めるが無理をしなくてよいというオープンスコアであった。筆者他数名が服を脱ぐ必要性を感じられず着衣のまま参加したところ、ハルプリンより「普段の身体がいかに守られることに慣れているか感じて欲しい。」と話があった。

4日目、ハルプリンが考案したムーブメント・リチュアルというボディ・ワークで体を目覚めさせ、『Circle the Earth』の抜粋を行う。

5日目、再度裸で自然を感じるスコアが課される。今回は肌が直接自然に触れることが求められるクローズスコアで、自ら自然を感じようとするのではなく、自然が語りかけてくるのを待つよう指示される。その後感じたことを描き全体で共有。共通の経験として現れたリソースをもとに、岩から、水、植物、動物、そして人間へと移行するパフォーマンスを行う。このスコアは、異なる要素を行うことで自身のバランスを整え統合すると同時に、W.S.全体の経験も統合し、共同体に調和をもたらす重要な役割を果たしていると感じた。

6日目、再び裸で自然を感じるスコアが提示されたが、裸になることへ抵抗を持つ参加者から反

論が起こり気持ちを分け合うのみとなった。ハルプリンが強引に自身のスコアを行わないことにより、W.S.は参加者のRitualとなりMythとなった。最後にW.S.全体を通じて今感じる体を描くスコアが課され、描いたものを全体で共有し終了した。

ハルプリンのW.S.を受講することにより、同じテーマのW.S.が行われても、参加者が異なると収集されるリソースが異なる為、スコア、パフォーマンス、ヴァリアクションの内容も変化していくことを確認することができた。

#### 5. ハルプリンの舞踊思想

ハルプリンは、ライフ/アート・プロセスによって身体・感情・精神の統一を行い、生活と芸術プロセスの統合をはかることを目的としている。これを先ほどのW.S.の経験に置き換えてみたい。

筆者は当初、自分の価値観から裸で自然を感じるスコアを行うことができなかった。しかし、ハルプリンの問いかけに一步踏み出し、これまで経験したことのない感覚を、ただ自然経過を受け入れるという手段で経験した。筆者のパフォーマンス内容と技能は価値観の変化により新たなステージへと導かれ、一步踏み出すという生きる上で必要な生活技能の獲得にも結びついていった。

自然を偉大な教師とするハルプリンは、1時間という小単位での自然の経過や、1日、1年という単位での自然のサイクルに受け身的に自身をあわせることにより、そこから得た感覚をもとにパフォーマンスを行っている。そして、経験したパフォーマンスの内容と技能を、生活技能に置き換え、生きる方法、生活する力としているのである。ハルプリンの活動において、ダンスと生活は切り離されるものではなく、生きることそのものがダンスとなっているということができる。

#### 引用文献

- 市川雅 (1975) 「アン・ハルプリン Ann Halprin」『アメリカンダンスナウ』PARCO出版, pp. 67-73
- Banes, Sally (1995) "INTRODUCTION", *Moving Toward Life-Five Decades of Transformational Dance*, Wesleyan University Press, pp. 2-4.
- Halprin, Anna (1968) "Mutual Creation", *Drama Review*, N.Y. (T-41), p. 163
- Halprin, Anna (1989) "Planetary Dance", *Drama Review* vol. 33 no2 (T-122), pp. 51-67
- Halprin, Anna (1994) "Earth Dance: The Body Responds to Nature's Rhythms", *Moving Toward Life-Five Decades of Transformational Dance*, Wesleyan University Press, pp.x-xiii, pp. 212-225
- Smith, S. Nancy (1990) "Three Decades of Trance formative Dance", *Contact Quarterly*, vol. 15, no. 1, pp. 20-31
- Rachel, Kaplan (1995) "EDITOR'S NOTE", *Moving Toward Life-Five Decades of Transformational Dance*, Wesleyan University Press, pp.xvi-xviii,
- Reardon, Christopher (1999, 6, 15), "Earth Mother", *The Village Voice*